

令和2年度 学校評価（自己評価）

自己評価のためのアンケート結果からの考察（教職員・生徒・保護者）

※本年度は、各アンケートが目指す生徒像を踏まえた質問内容になっているかどうかを検討し、表現の変更や質問数の精選を行った。また、保護者アンケートには、自由記述欄を設け、保護者の意見を具体的に知ることができるようにした。

学校運営・学校経営について

- ・本年度はコロナ禍の中で、教職員にも様々な負荷がかかった。
- ・昨年度に比べ、加配教師の減少等により、先生方一人ひとりにかかる負担感が多かった。
- ・2学期より、学力向上支援スタッフを6人配置することで、子供たちにきめ細かい指導や支援を行うことができるようになった。

学習指導について

- ・コロナ禍の中ではあるが、教職員は、対策を講じたうえで協同的な学習にも積極的に取り組んでいた。
- ・授業に関する生徒のアンケートからは、特に、話を聞くこと・ノートをとることなどにはまじめに取り組んでいる様子が伺える。それに比べ、発言や発表には消極的な生徒が多いが、前期に比べると肯定的な回答が増えている。グループやペア活動には積極的に取り組んでいた様子が数字からもうかがえる。
- ・学校生活の大半を占める授業が「わかる」「楽しい」時間になるよう、教師は一層の授業改善を進めていく必要がある。
- ・GIGA スクール構想の準備が始まっているものの、教職員にとってはICT活用に対しての温度差があり、2極化が進んでいる。学校全体での研修を通して、ICTに対する拒否感のある教師を減らし、活用できる教師を増やす地固めが必要である。
- ・一方、一人一台タブレットは万能ではない。道具としての活用を考えると、まずは魅力ある授業をどうつくるかに腐心することが大切である。

生徒指導について

- ・生徒指導に自信がなく自己評価の低い教職員が、若い教師の中に複数名いることがわかった。年度途中からの採用の教職員は、特にその傾向が大きい。「チーム学校」として、すべての教職員が安心して指導に当たれるように教師間の協働をすすめていきたい。
- ・生徒の自主性や主体性を育むという点では、教師・保護者共に「おおむねそう思う」の回答が多い。自信をもって「そう思う」と答えられる教職員が増えるよう、目指す生徒像を全職員で共有する必要がある。

保護者地域との連携について

- ・コロナ禍の中で、授業参観や行事が中止になることも多いが、保護者のアンケートでは学校教育に対する好意的な回答が多くみられた。
- ・保護者アンケートを通して、多くの質問やご意見をいただくことができた。必要に応じて、校長面談の機会をつくり、さらに深く意見をうかがうことができた。連携のきっかけづくりにもなった。
- ・校長が発行する学校だよりを、多くの保護者が楽しみにしていることが、保護者アンケートで確認することができた。
- ・教職員の自己評価では、「小中一貫」の取り組みに対し、昨年度に比べ、充実しているという回答が少なかった。交流活動や授業参観などが中止になり、思うような活動ができなかったことが大きな理由と考える。

学校の特色について

- ・生徒、保護者、教職員共に「挨拶」に対する肯定的な回答が多い。楡形中学校の文化として「挨拶」が根付いている。
- ・スリンプル（スリム&シンプル）プログラムについて、生徒の肯定的な回答が9割を超えている。教職員も、コミュニケーションスキルや自尊感情の向上に、このプログラムが役に立っていると感じている。今後も継続して取り組んでいくとともに、つけた力を授業改善に生かしていきたい。

